

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者と職員が接する時間を長く持つことで会話と一緒に過ごす機会を増やし、より具体的な利用者の「思い」の把握に繋がる言葉・行動を引き出す取り組みに期待する。又、介護記録が利用者の「思い」「意向」の把握に繋がるような記載方法の検討に期待する。	利用者様と接する時間を意識的に個々が持ち、ご本人様の思いを引き出せる様に努める。	ホーム内のレク・行事食・外出・外食など計画を立て、その中でご本人との関わりを深め何気ない会話の中から思いに繋がる言葉をつかめるように、日々の暮らしの中でも気に留めていくよう。ケース記録には、個々の発した言動・行動・表情を確実に残しケア会議で職員に周知してもらう。言葉の背景も考察する。	3ヶ月
2	26	利用者の笑顔を引き出せるよう、より利用者本位(個々の思い・好きな事・出来る事)の視点を重視した具体的な目標設定が期待される。また、モニタリングしやすいように、支援内容はより具体的な明示が期待される。	同上	「本人の言葉」「背景」を大切にケース記録に書かれた本人の思いを介護計画に落とし込み日々の支援に繋げる。本人の要望・職員全体の意見・医師の所見・家族の思いも参考に、本人の思いに近づけるサービスの提供ができモニタリングしやすい支援内容になるよう明示する。	3ヶ月
3	35	職員の緊急時対応のスキルアップへの継続的取り組みと、職員個々のスキル・能力が望まれる。	緊急対応・リスクマネジメントの研修に施設内・外に参加をする。個々で習得した知識等はケア会等で共有できる。	ホーム内の研修をランダムに開催し周知していく。どんな場面に遭遇しても落ち着いて対応できるように職員個々が取り組む。緊急時の連絡体制をホームに掲示し早急に対応できるようにする。	3ヶ月
4	56	共同生活空間は大人が生活する場とした装飾への配慮が望まれる。	職員・利用者様がアイデアを出し合い、決して幼稚にならないよう簡単な手作業で制作できるものを考える。	季節感が感じられる物を考え、利用者様と職員と一緒に楽しみながら折り紙・貼り絵など共同作業をして行きたい。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。